

参考

1. シラバス

回	実施形態	トピック	学習目標	語彙表現	文法・文型、表現	表記学習
1	対面	自己紹介（自己開示）	自己紹介をし、共に学ぶことができる。 日本語レベルチェック SenTIA（支援機関）について知る	教室のことは あいさつ 国名、数字、 時間を表すことば（今年、去年、一昨年、～年前に、～月）	自己紹介（はじめまして、（名前）です。出身は（出身国・地）です。どうぞよろしくお願ひします。 すみません、お名前は？ お国はどこ／どちらですか。（国）のどちらですか。 いつ日本に来ましたか。	
2	オンライン	何を食べましたか。（自分の行動を説明する1）	自分の行動について伝えることができる	時間を表すことば（今日、昨日、明日） 食べ物のことば 動詞①	N を 食べましたか。 はい、食べました。／ いいえ、食べませんでした。 何を V しましたか。～を V しました。 N と N	ひらがな：あ行、 か行
3	オンライン	好きなもの（自分の気持ち1）	お互いの好きなものについて、話すことができる。	数字（0、1～10） 食べ物のことば 味を表現する形容詞 日本の食べ物	～が 好きですか。 はい、好きです。／いいえ、好きじゃありません。 ～が 好きです／～は 好きじゃありません。 ※な形容詞（非過去の肯定・否定） 全部 好きです。 程度副詞（ちよっと、とても、あまり、ぜんぜん） どんな N が 好きですか。	ひらがな：さ行、 た行

回	実施形態	トピック	学習目標	語彙表現	文法・文型、表現	表記学習
4	オンライン	今日、何をしましたか。(自分の行動を説明する2)	自分の行動について伝えることができる	数字 (11~20) 時間を表すことば (毎日、いつも、～時、～時半) 動詞②、動詞③	何時に V しましたか。～時に V しました。 今日、これから 何を しますか。 ※動詞 (非過去の肯定・否定)	ひらがな: な行、は行
5	オンライン	どこへ行きましたか。(自分の行動を説明する3)	自分の行動について伝えることができる + α 情報共有: スーパー (安い、便利、外国のものがある)、100 均、	数字 (20~100) 場所を表すことば 動詞④	(場所) へ 行きました。 どこで V しましたか。 どこも V ませんでした。 (場所) で V しました。 ※動詞 (過去の肯定・否定)	ひらがな: ま行、や行
6	オンライン	病院で (健康・福祉)	自分の不調を伝えることができる。 体調の悪い人を慮ることができる。 日本の病院に関する情報を 知ることができる。	体に関することば 時間を表すことば (～日前)	A: 今日はどうしましたか。 B: ～が痛いです/熱があります A: いつからですか。 B: ～からです。 大丈夫ですか。/無理しないでください。/お大事に。	漢字「目」「耳」 「口」「鼻」
7	オンライン	東京はどうでしたか。(自分の気持ち2)	自分の感想や考えを伝えることができる。	形容詞②、形容詞③	※動詞復習 どうですか。 でも、～ A くないです/A じゃありません A くなかったです/A じゃありません ※形容詞 (な形容詞/い形容詞グループ分け、過去の肯定・否定)	ひらがな: ら行、わ行、ん

回	実施形態	トピック	学習目標	語彙表現	文法・文型、表現	表記学習
8	オンライン	日本でしたいことと（自分の気持ち3）	自分が日本でしたいことについて話すことができる。地域にある観光地や有名な食べ物について知る。		※動詞復習 V（ます形）＋たいです。	ひらがな：濁音、半濁音
9	オンライン	休みの日（自分の行動を説明する4、人とつながる1）	休みの日にいつも何をするか、友達と話すことができる。地域のイベント情報などを知り、友達を誘うことができる。	イベントのことば（お茶、映画、お花見等） 時間を表すことば（先週、今週、来週） 頻度を表すことば（いつも、たいてい）	※動詞復習 Vます。それから、Vます。 V（ます形）＋ませんか 大丈夫です。／すみません、ちょっと…。	ひらがな：長音、拗音、撥音
10	対面	同じ地域に住む人と話そう（人とつながる2）	これまで学んだ日本語を使って、学習支援者と交流する。 ※教室アンケートへの回答 ※日本語学習継続のための相談もしくは情報提供			

3. クラス授業の進め方の例（1回120分の場合）

- ① メイン：ウォーミングアップ・復習、その回の語彙・文型導入（20分）
- ② クラス授業（70分）：語彙・文型の再確認、練習、「話しましょう」例示
※間に休憩5分
- ③ グループワーク（10分）：
テキストの練習「話しましょう」を使って、2～3名程度でグループワークを行う。講師がグループを回りフォローする。「話しましょう」の項目だけで終わるのではなく、そこから話を続けていくように促す。この時間は学習者同士が共通言語（英語など）を使いながら話すことも許容し、横のつながりができるように促す。
- ④ クラス授業：ひらがなもしくは漢字学習（15分）、事務連絡（5分）
- ⑤ 2回～9回は宿題として、ひらがな練習と各回の「まとめ」完成を課す。
生活支援や相談が必要な場合は、地域の国際交流協会等への相談も検討。

3. クラス授業を実施する場合の留意点

- ・ 学習時間が限られているため、扱う言語形式は最小限に留める。語彙や場面を多様に提供し、運用力・応用力を伸ばすことができるよう働きかける。
- ・ コースで扱う表現・文型・語彙は、スパイラル学習として複数回に渡って何度も触れるようにする。何度も同じ言語形式を学び、運用することにより、定着を図る。
- ・ 学習者がどのような背景を持っているのか、自己開示をしてもらうよう働きかける。それによりグループ毎に学習内容をアレンジする。
- ・ 学習者同士の横のつながりができるよう、講師はそれぞれの共通点を探したり、学習者同士をつないだりする等の働きを行う。